

〜古代ロマン〜

震災を経て

姿を現した数々の出土品が

いにしえ  
古の暮らしを物語る

現在、町が進めている災害公営住宅の建設に伴い、一部の建設予定地で発掘調査が行われ、多彩な出土品をはじめとした先人たちの暮らしの跡が発見されています。なんと古いものでは、今から約8000年前までさかのぼるとされています。

発掘調査とは、どのようなものか

昔の人が地面に残した生活の痕跡（遺構）や作ったもの（遺物）を対象に調査を行います。その内容は、刑事ドフマでおなじみのあの場面、鑑識による現場検証が最も近いかもしれません。

先人たちが残した痕跡や物から、各時代の生活やなりわい、文化を復元していきます。現地調査で終わりでありません。そして、遺物や記録の整理を行った後、調査報告書が刊行されて初めて公的な遺跡の価値づけが可能となります。

何のために発掘調査をするのか

目的は大きく二つ。一つは、考古学の研究目的のために遺構の一部を調査するもの（学術調査）。もう一つは、開発によって失われる前に、記録を残すために行うもの（緊急調査）で、今回は、この緊急調査に当たります。

遺跡は、私たちのルーツを知る上でとても重要なものであり、保存して将来に残すことが理想的ですが、私たちの社会生活ももちろん大切であるため、開発側と十分に協議した後、保存が不可能な場合のみ、調査をして記録として残されていきます。

益城町にも、古より代々続いてきた歴史があります。この機会に当時の人々の暮らしに思いをさせてみてはいかがでしょうか…。